

白老おもてなしガイドセンター

コロナ禍を逆手に質向上、勉強の年！ 両副町長に年度前期の活動報告

同センターの岩城達己代表、大橋一夫副代表、松本曜子事務局長の3人が9月30日役場を訪れ、竹田敏雄、古俣博之両副町長に年度前期の活動を報告。「コロナ禍で活動もままならないですが、逆に勉強の年にしよう、とみんなで頑張っています」と話し、製作したばかりの活動案内のチラシを届けました。

同センターは今年4月、「白老の魅力を伝え、まち活性化に一役買いたい」と、町主催ガイド人材育成講座の修了者有志17人が、講座で学んだ知識を生かそうと発足させました。緊急事態宣言を含むコロナ禍で、札幌の修学旅行生約150人のガイド予約もキャンセルになるなど本格活動には至っていないと言いますが、「この期間にいろいろな部分を深めることができます」（岩城代表）と、ガイドコースの設定や勉強会の開催、旅行会社などへのアプローチと準備を怠っていません。

案内チラシはA4判、カラー。自前の写真使用やレイアウトなど全て手作りで、白老の「アイヌ文化と歴史」「自然環境」「お店や温泉のプチ情報」など主なガイドコースを記載。「サケ ウォッチング」「ポロト自然休養林散策」とコース別で紹介しています。対応した竹田副町長は「思いきり活躍してください」と激励しました。



ガイド、触れ合いーと、初仕事に手ごたえ 観光客の反応も上々

白老おもてなしガイドセンターのメンバーが10月13日、札幌からの観光客をポロト自然休養林に案内。待ちに待ったガイド第1号を張り切っておもてなししました。

訪れたのは札幌の登山サークルの13人。この日のガイドはメンバー4人が対応しましたが、自然やアイヌ文化との関わりを事前学習したり、前日には実際にコースを歩き、所要時間や危険箇所がないかをチェックする周到的な用意を重ねました。



キャンプ場近くから遊歩道沿いを歩きながら、メンバーらは秋色に染まり始めた林の植生やアイヌ民族の食文化などを紹介。時には笑いを誘う“芸達者”ぶりを発揮しながら和気あいあいと約1時間半の行程を案内。樹齢600年といわれる「セン」



(ハリギリ)の巨木やポロト湖に流れ込む澄んだウツナイ川と、

参加者らも大満足の様子でした。

岩城代表は「ついに思いがかなった、という初ガイドでした。会員の地道な努力が実り大変うれしいです。参加者からは『ガイドしてもらって大正解』とうれしい言葉ももらいました。長く活動できればと思っています」と話していました。17日には静岡からの17人を、「サケの遡上」ルートでガイドする予定も入っていました。申し込み・問い合わせは白老観光協会・白老駅北観光インフォメーションセンター（☎0144-82-2216）へ。

